

# 北海道浮魚ニュース

平成 27 (2015) 年度 3 号

2015 年 5 月 27 日

北海道立総合研究機構水産研究本部 函館水産試験場

ホームページ : <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

## ◎日本海スルメイカ北上期調査結果

5 月 21 日～ 26 日の期間、北海道松前沖から秋田県沖にかけての日本海で、函館水産試験場調査船金星丸 (151 トン、イカ釣機 5 台、集魚灯 20 灯装備) により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・調査海域のスルメイカ平均分布密度は過去 5 年を上回った。
- ・漁期開始直後の漁場は昨年より岸近くに形成されると思われる。
- ・魚体サイズは昨年及び過去 5 年平均より大きい。

### 1. 水温分布 (図 1)

漁獲調査点 5 地点の表面水温は 9.2 ～ 15.8 °C (昨年 10.8 ～ 14.3 °C)、水深 50 m の水温は 3.2 ～ 11.0 °C (昨年 6.2 ～ 9.7 °C) の範囲にありました。

スルメイカの分布の目安となる水深 50m の水温分布では、10 °C 以上の比較的水温の高

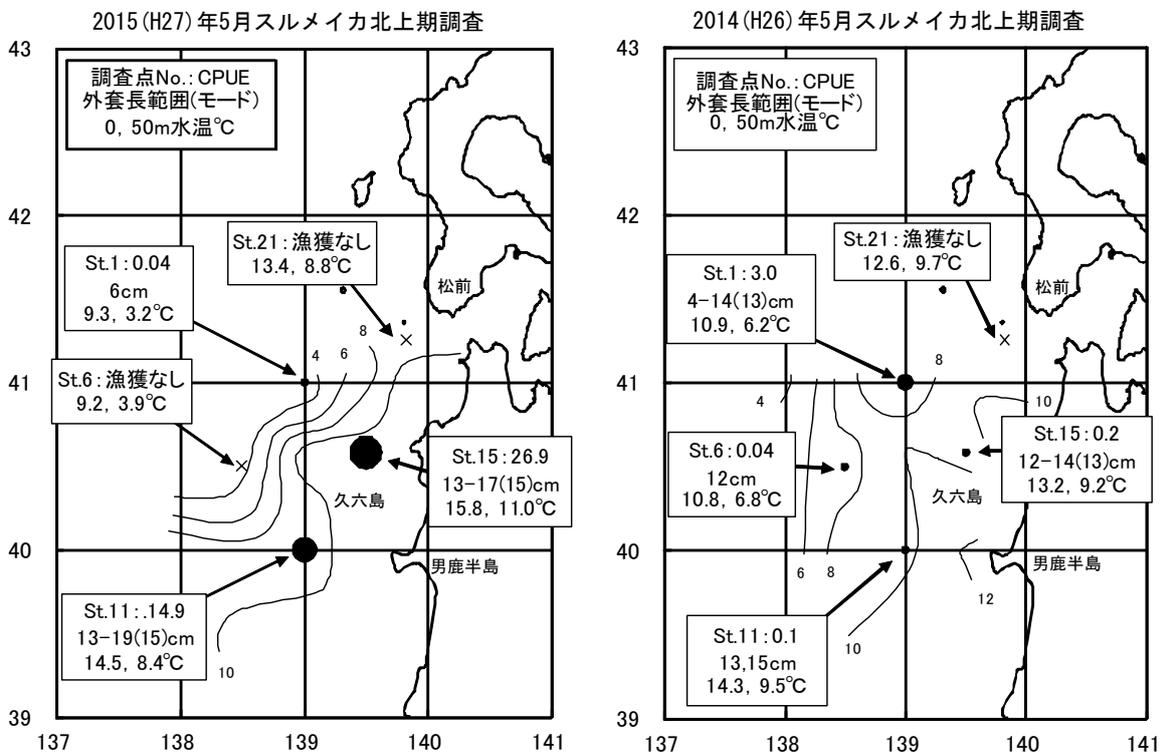


図 1 スルメイカ漁獲調査結果 (2014 年との比較)。●は漁獲調査点で大きさは CPUE に比例。

×は漁獲なし。等温線は水深 50m の水温 (°C)。

い海域が秋田県沖から青森県沿岸にかけ昨年より広い範囲にみられた一方、昨年東経 138 度 20 分付近より西の沖合だけにあった 6℃以下の低水温の海域も、今年は秋田県北部から青森県にかけての海域で調査海域の北側及び沖側に広くみられ、全体として、岸近くと沖合の間で水温の勾配が急になる傾向がありました。

## 2. 分布密度 (図1、図2)

漁獲調査点 5 地点の CPUE (2 連式イカ釣機 1 台 1 時間当たり漁獲尾数) は 0 ~ 26.9 (昨年 0 ~ 3.0) の範囲にありました。最も CPUE が高かったのは青森県久六島北の St.15 (26.9) でした。平均 CPUE

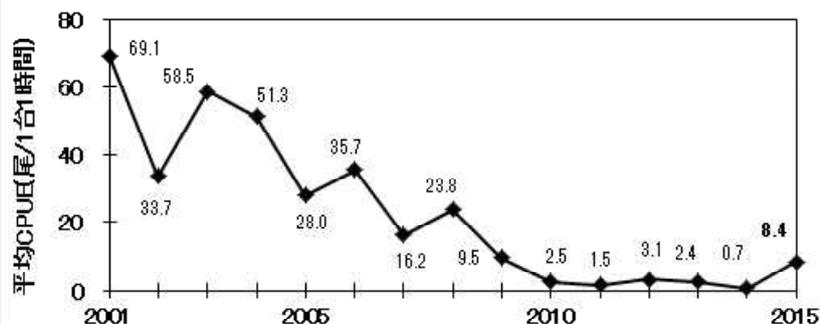


図2 松前以南 5 地点の平均 CPUE の経年変化 (2001 年以降)

は 8.4 で過去 5 年の値 (0.7 ~ 3.1、平均 2.1) を上回りましたが、調査が現在の形となった 2001 年以降では依然として低い値でした。

6 月の漁期開始直後に道南海域での主漁場となる松前沖の St.21 では昨年に続き漁獲がありませんでしたが、水産庁による長期漁況予報では 2015 年 5 ~ 7 月の日本海全体の来遊量は昨年及び過去 5 年平均を上回ると予想されており (浮魚ニュース 2015 年度 2 号)、今回の調査結果と併せて、漁期開始直後の道南日本海への来遊は過去 5 年との比較では多くなると考えられます。今回の調査では分布が調査海域の南側にあたる青森県から秋田県の沿岸寄りに集中する傾向があったことと、青森県以北の沖合にスルメイカの生息に適さない低水温の海域が昨年より広くみられたことから、漁期開始直後の漁場は昨年に比べ岸近くに形成される可能性が高いと思われます。

## 3. スルメイカの大きさ (図3)

調査海域全体のスルメイカ外套長 (胴長) の範囲は 6 ~ 17cm (昨年 4 ~ 15cm) でした。最も多く漁獲されたイカの大きさ (モード) は 15cm (昨年 13cm、過去 5 年平均 14cm) で、全体的な魚体サイズは昨年及び過去 5 年平均より大型でした。

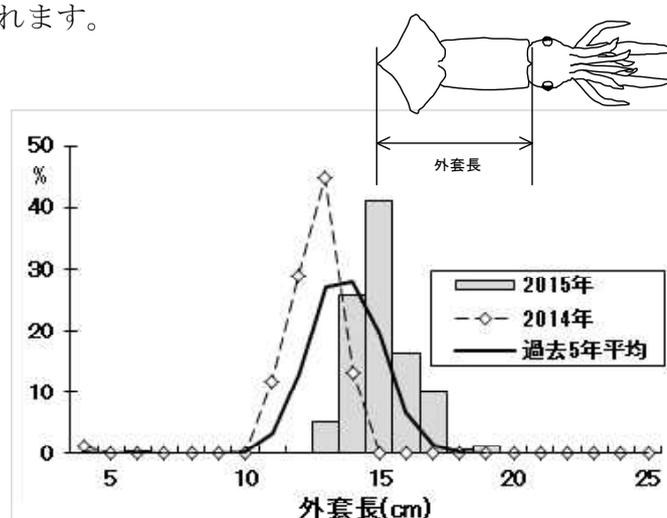


図3 調査海域全体の外套長組成

## 4. 標識放流 (図4)

調査期間中、青森県久六島北の St.15 で 487 尾の標識放流を行いました。放流を行ったイカは、「HK」の文字と「000」から「489」までの 3 桁の数字が黒い文字で記入されたピンク色のスパゲティ型タグが、ヒレの部分に打られています。

標識のついたスルメイカを再捕された方は最寄りの水産試験場まで報告いただきますよう、よろしくお願いいたします。

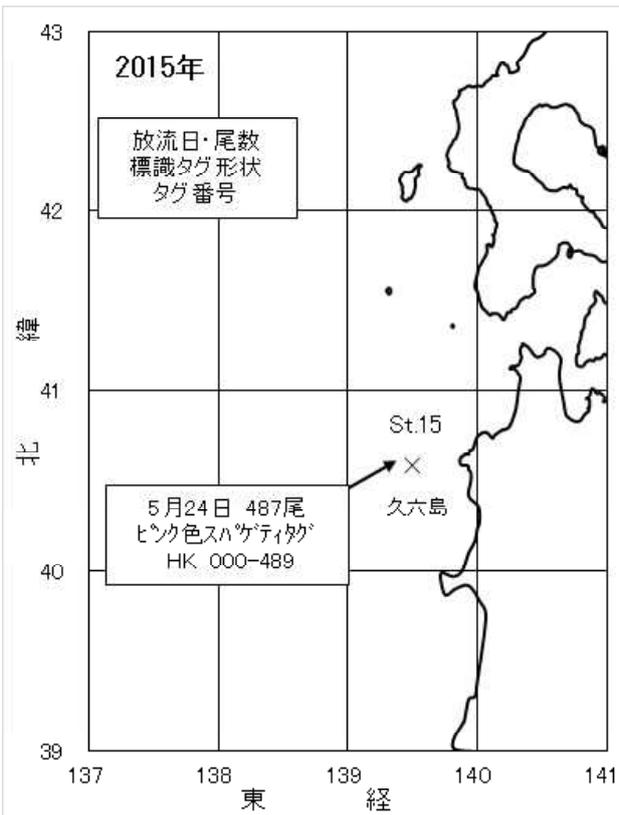


図4 標識放流の位置・放流日・尾数及び標識の形状と番号

(函館水産試験場調査研究部、TEL : 0138-83-2893、FAX : 0138-83-2849)